


2022年度（2023年3月期）
第1四半期決算 説明会資料

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
2022年8月3日





2022年度 Q1決算 総括

◆売上収益、売上総利益、及び受注高、受注残高が過去最高

受注は、情報通信での減少あるも、エンタープライズ、広域・社会インフラ、金融などの様々な分野におけるDX、クラウド案件などが伸長し増加

◆営業利益以下の利益項目は前年同期比で減益となるも、過去最高を更新した前年第1四半期に次ぐ高水準

一過性の50周年一時金を含め、人員増加、昇給・業績連動賞与を含めた人件費増加に伴い、販売管理費が増加

旺盛なIT需要への対応に加えて
新たなビジネス領域の拡大に向けた、
人員の増強を図り“Upgrade”を一步進めた

2022年度Q1(4-6月)業績

	2021年度 Q1	2022年度 Q1	前年比	増減率
売上収益	1,086	1,168	+82	+7.6%
売上総利益	275	278	+3	+0.9%
(売上総利益率)	(25.3%)	(23.8%)	(▲1.5p)	-
その他の収益及び費用	▲198	▲217	▲18	+9.2%
営業利益	77	61	▲16	▲20.5%
(営業利益率)	(7.1%)	(5.2%)	(▲1.9p)	-
当社株主に帰属する 当期純利益	54	43	▲11	▲20.2%
受注高	1,131	1,243	+112	+9.9%
受注残高	3,195	3,471	+277	+8.7%

■売上収益

▶製造、製薬、流通、公共、官公庁、金融、海外事業会社などの分野で好調に推移

■売上総利益

▶売上総利益率は前年同期比▲1.5p低下も、増収効果により増益

■その他の収益及び費用

▶社員数増加による人件費、一過性の50周年一時金、社内IT環境の整備や、営業活動の活発化などによる販売管理費などが増加

■営業利益/当社株主に帰属する四半期純利益

▶その他の収益及び費用の増加により減益

■受注高

▶製造、製薬、公共、地方自治体、金融などが好調に推移

2022年度Q1(4-6月) 事業グループ別実績

	受注高			売上収益			受注残高		
	2021年度 Q1	2022年度 Q1	前年比	2021年度 Q1	2022年度 Q1	前年比	2021年度 Q1末	2022年度 Q1末	前年比
エンタープライズ	166	218	+53	181	203	+22	530	612	+82
流通	106	95	▲11	125	134	+9	297	318	+21
情報通信	403	239	▲164	368	362	▲6	1,134	984	▲150
広域・社会 インフラ	207	314	+107	187	209	+22	646	796	+151
金融	70	156	+86	88	101	+13	278	345	+67
その他	180	222	+42	136	159	+23	311	417	+106
連結	1,131	1,243	+112	1,086	1,168	+82	3,195	3,471	+277

<事業グループ別>

■エンタープライズ

受注・売上：製造、製薬、情報サービス、エネルギー向けインフラやクラウドなどが増加

■流通

受注：小売向け運用や不動産向けサービス基盤などが減少

売上：商社向け開発や流通向けインフラなどが増加

■情報通信

受注：前年の5G関連案件などネットワーク領域の反動減により減少

売上：ほぼ横ばい

■広域・社会インフラ

受注：公共向け共通プラットフォーム構築や地方自治体向けセキュリティなどが増加

売上：公共や官公庁向けインフラなどが増加

■金融

受注：政府系金融機関や銀行向けデータ分析基盤などが増加

売上：銀行向けデータ分析基盤などが増加

■その他

受注：国内事業会社における製品販売や、海外事業会社（シンガポール）におけるインフラなどが増加

売上：海外事業会社（シンガポール、インドネシア）におけるインフラなどが増加

2022年度Q1(4-6月) ビジネスモデル別実績

	受注高			売上収益			受注残高		
	2021年度 Q1	2022年度 Q1	前年比	2021年度 Q1	2022年度 Q1	前年比	2021年度 Q1末	2022年度 Q1末	前年比
サービス	391 (34.6%)	450 (36.2%)	+59	493 (45.4%)	536 (45.9%)	+43	2,058 (64.4%)	2,162 (62.3%)	+104
開発・SI	267 (23.6%)	304 (24.5%)	+37	247 (22.7%)	264 (22.6%)	+17	390 (12.2%)	393 (11.3%)	+3
製品	473 (41.8%)	489 (39.3%)	+16	346 (31.9%)	367 (31.5%)	+21	747 (23.4%)	916 (26.4%)	+169
連結	1,131	1,243	+112	1,086	1,168	+82	3,195	3,471	+277

※ () 内の割合は構成比

<ビジネスモデル別>

■サービス

受注：前年の小売向け運用や、通信向け5G関連案件などの反動減があるものの、製造や製薬向けクラウドや、公共向けミドルウェアライセンス、政府系金融機関向け運用保守などが増加
売上：情報サービスや流通向けクラウド、通信向け保守、公共向け保守運用などが増加

■開発・SI

受注：前年の通信向け5G関連案件の反動減があるものの、建設向け解析シミュレーションや公共向け共通プラットフォーム構築、政府系金融機関向け開発などが増加
売上：前年の通信向けインフラ構築の減少があるものの、運輸向け顧客管理システムや、官公庁向けネットワーク構築などが増加

■製品

受注：前年の通信向け5G関連案件や海外事業会社におけるインフラの反動減があるも、エネルギー向け次世代基盤や公共向け共通プラットフォーム、銀行向けデータ分析基盤などが増加
売上：前年の通信向け5G関連案件の減少があるも、エネルギーや銀行向けインフラなどが増加

2022年度Q1(4-6月) その他の収益及び費用 内訳

(億円)

		2021年度 Q1	2022年度 Q1	前年比
販売管理費 及び 一般管理費	人 件 費	▲120	▲134	▲14
	委 託 社 員 受 入 費	▲19	▲21	▲2
	減 価 償 却 費	▲30	▲14	+16
	そ の 他	▲30	▲55	▲25
		▲199	▲225	▲26
その他の収益		1	8	+7
その他の費用		▲1	▲0	+0
その他の収益及び費用		▲198	▲217	▲18

<販売管理費及び一般管理費>

■人件費

- 社員数の増加、昇給、業績連動賞与や、一過性の50周年一時金などにより増加

■その他

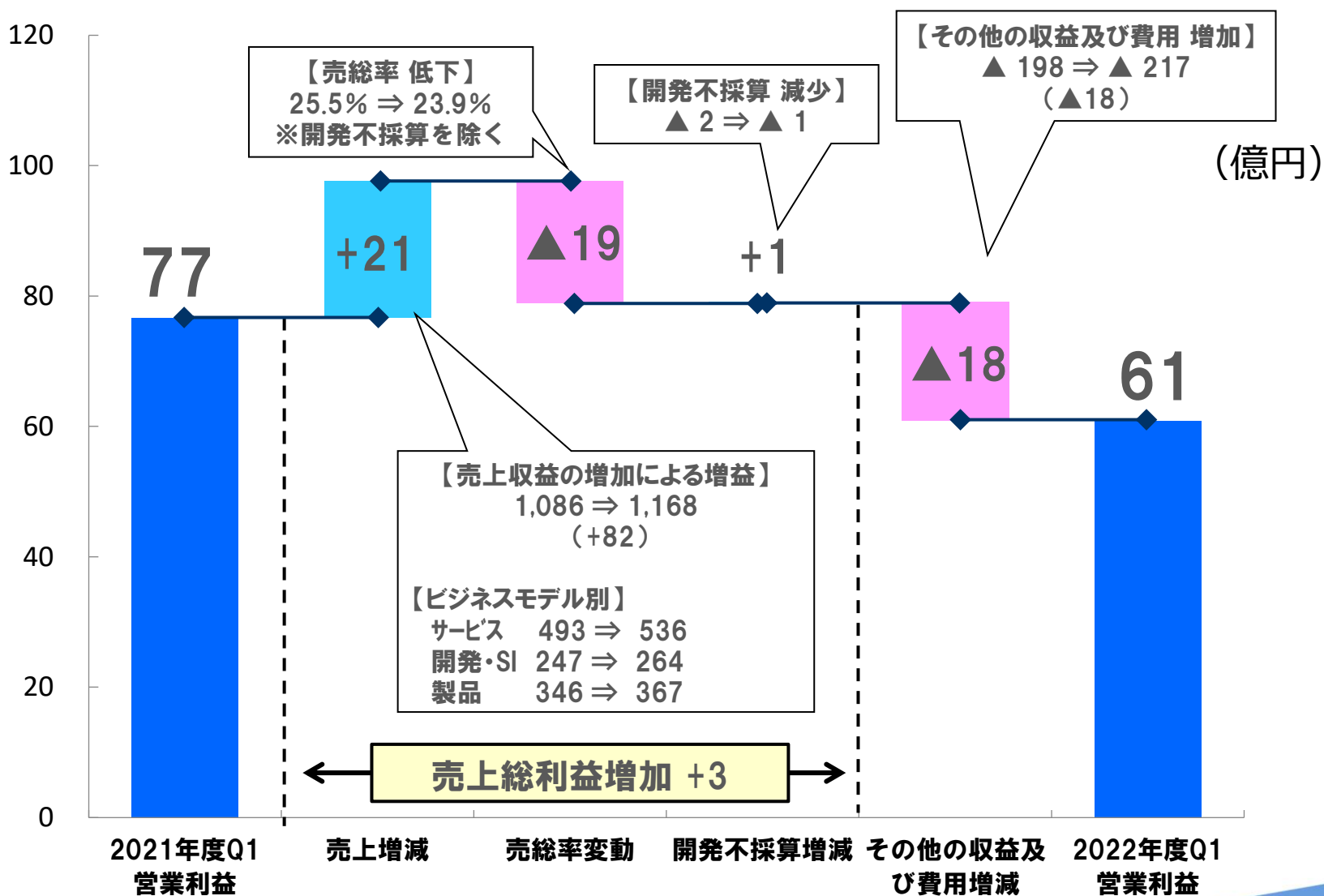
- 社内IT環境の整備や、営業活動の活発化などにより増加

※前年度オフィス移転に伴う損益の反動が「減価償却費」と「その他」に分かれて計上されているが、ネットインパクトは軽微

<その他の収益>

- 為替変動のリスクヘッジを目的に保有する外貨預金の評価益を計上

2022年度Q1(4-6月)営業利益の増減要因





Beyond the Horizons

▼ その先の未来へ

CTC

▼ Challenging Tomorrow's Changes

・本資料に記載されている業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定要素を含んだものです。
実際の業績は、経済情勢をはじめさまざまな要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おきください。